

令和2年度「宝くじ松」配布・植栽事業の概要

No.	都道府県	団体名	マツの種類と規格 (m)	本数 (本)	(植栽地) 植栽趣旨
1	新潟県	NPO法人 森の会	抵抗性クロマツ H=0.2	500	(海辺の森キャンプ場) 海辺の森キャンプ場は、かつて白砂青松の松林でしたが、近年、マツ材線虫病により壊滅的被害を受け、数万本のクロマツが伐倒されました。その後、ニセアカシアが侵入しクロマツの生育を阻害する土壌環境となるなど荒廃していましたが、NPO森の会は海辺の森観光地として再生すべく、地域住民とともに植樹活動を続けているところです。 2018年度に初めて「宝くじ松」400本を植栽し、2019年度も継続して500本の植樹を市民参加型で行い、2020年度も実施したいと考えています。
2	新潟県	新発田市藤塚浜 財産区管理会	抵抗性クロマツ H=0.2	280	(藤塚浜財産区 保安林) 藤塚浜財産区の保安林は日本海の暴風による飛砂から住宅や農地等を守る、地域にとっては大変重要な松林です。しかし、近年のマツ材線虫病被害の伐倒駆除対策により、枯れた松を伐採しているため、年々本数が減少しつつあります。 このままでは松がなくなってしまうと、危機感をいだき、植樹を計画しました。
3	静岡県	中町保全管理 組合	抵抗性クロマツ H=0.5	500	(浜岡砂丘) マツ材線虫病被害や塩害により枯損した海岸防災松林を再生するため行うものです。
4	福岡県	芦屋町	抵抗性クロマツ H=0.25	200	(白浜保安林、鶴松保安林、浄化センター) 本町の森林は、地域住民の生活に密着した里山等の広葉樹と海岸線に臨む松林等の針葉樹で構成されています。これらの森林は自然環境の保全や風害・飛砂・塩害から田畑、住宅、道路等を守る機能を果たしてきましたが、近年のマツ材線虫病被害の拡大によるマツの減少により、その機能が減退しています。 このたびの松植栽事業の実施は、前述の森林による環境保全機能の回復を図ると同時に、町木ともなっているクロマツを次世代へ受け継いでいくために行うものです。
5	沖縄県	伊江村	リュウキュウマツ H=1.0	250	(ゴヘズ松林) ゴヘズ松林はリュウキュウマツが大きく育っていますが、倒木等により数が減少しています。緑地の修景効果を図るとともに、村民が参加する植樹祭を開催し、村民の緑化推進における啓発向上に寄与することを目的として植栽します。
		計		1,730	